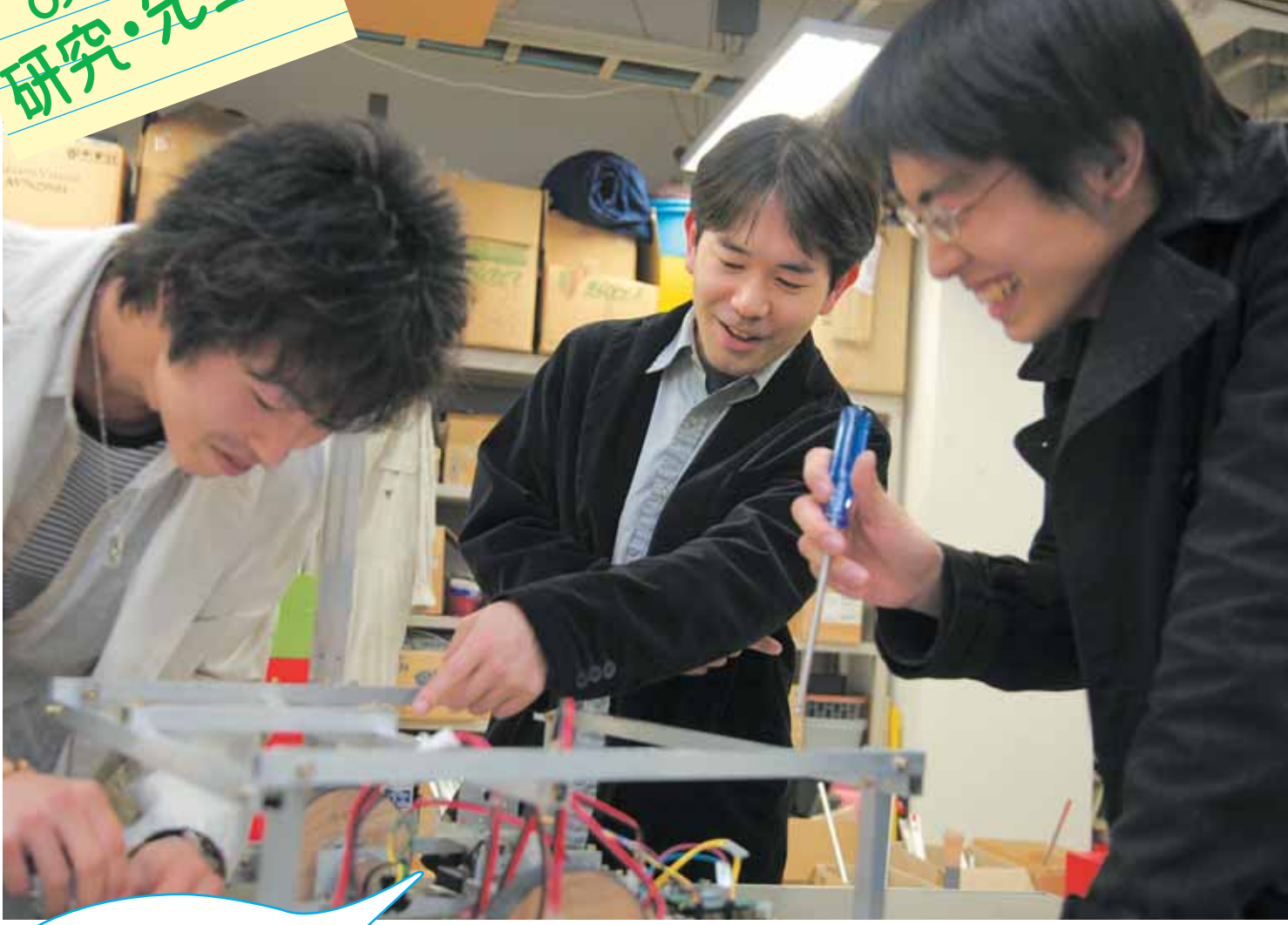


特集
おもしろ
研究・先生Ⅲ

自分の手で作った「ロボット」が動く・・・感動の瞬間



その新センサは、
取り付け高さ
外乱光対策が命

◎三重大学ロボコンクラブ「M³RC」(エムキューブアールシー)

三重大学工学部では、4年生になると卒業研究のために研究室に配属されます。メカトロニクス研究室では、そのうち何名かがロボット関連研究に従事します。

そこで、ロボット製作を通じて心身ともに鍛え、「企画力」「技術力」「人間力」を身につけると、「NHK大学ロボコン」での優勝を大きな目標とし、2002年10月に工学部機械工学科メカトロニクス研究室を母体としてロボコンクラブ「M³RC」を設立しました。



三重大学総合情報処理センター・准教授
杉浦 徳宏 Sugiura, Tokuhiko

◎ロボット＝『知能機械』

ロボット＝ヒト型ロボットとイメージされることが多いのですが、そもそもロボットとは、状況を判断し、自由に複雑な動作を行い状況の変化にも対応できる『知能機械』のことを意味します。すなわち、「何かを操作できる機能を持っている」＝ロボットなのです。

◎思うがままに動くロボットの完成

ロボコンチームでは、大会前は専らロボットの製作に集中していますが、普段は様々な勉強会や部内大会を行って技術レベルアップを図っています。その上、三重大学で履修した科目が実践で役に立つということを認識(再認識)する重要な場にもなり、また、ロボコンを通して「ものづくり」の楽しさと生みの苦しみも体験することになります。

ロボットの製作は、形が出来上がり物理的に完成したところが真のスタートです。制御を行って目的の動作を達成するまでには、試行錯誤の繰り返し、時には作り直しも必要となってきます。決して楽な道のりではありません。

しかし、その苦しみを乗り越えて、思うがままにロボットを動かした時、何物にも代え難い達成感と喜びを味わうことができます。この時に見せる学生の笑顔は、指導教官である私への最高のご褒美かつ喜びでもあります。



◎「NHK大学ロボコン2006」特別賞を受賞!

「NHK大学ロボコン」(<http://www.official-robocon.com/top.html>)では、書類選考とビデオ選考を経て本大会出場が決まります。特に書類選考では、純粋にアイデアとその実現性だけが問われる大変厳しい審査と言えます。

M³RCは創部以来、書類選考で毎年合格しており、2005年を除いて本大会に出場しています。昨年は、自動マシンの確実な動きが評価され、特別賞(トヨタ自動車(株)賞)をいただきました。

今年も、6月17日に行われる本大会に出場します。優勝めざしてがんばりますので、応援をお願いします。

三重大学ロボコンクラブ「M³RC」ホームページ
<http://robocon.robot.mach.mie-u.ac.jp/>



▲「NHK大学ロボコン2006」特別賞のトロフィー

M³RCは、学内から広くメンバーを募集し、半分サークル、半分研究室という学内でままれな共同活動体です。



▲M³RCのメンバー(総勢30名)
(中央左:顧問 野村由司彦教授、右:指導教官 杉浦徳宏准教授)